

最優秀賞

穂垣 友康・貴子

くらし設計室

【作品名】
続・三原の家

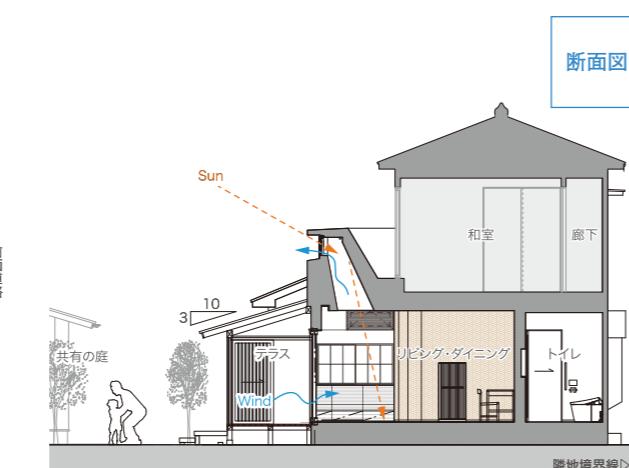
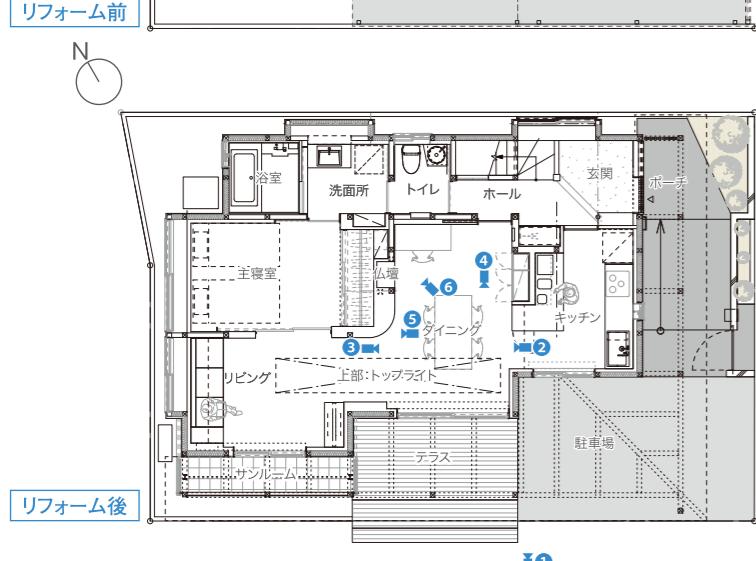
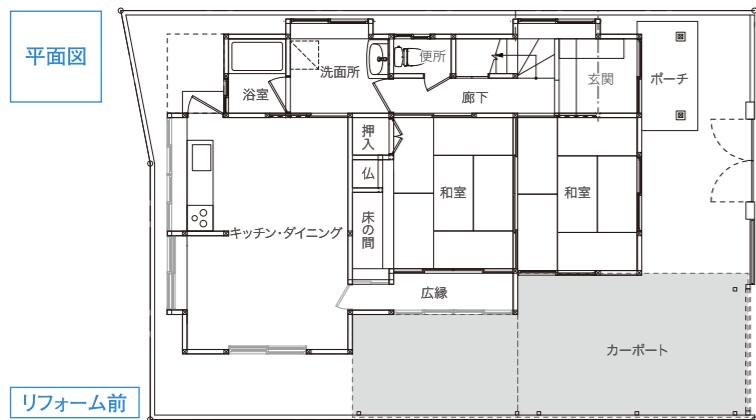
設 計
くらし設計室
施 工
隅田木造建築店
竣 工 日
2018年12月14日

◎建物概要

建 設 地 広島県三原市 延床面積 104.88m²
敷 地 面 積 133.25m² 構造・規 模 木造2階建

◎設備面の特記

厨 房 機 器	IHクッキングヒーター
給 湯 機 器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン 床暖房(ヒートポンプ式)



設計コンセプト

築30年木造2階建ての住宅をリノベーションした「続・三原の家」。子世帯が隣の敷地に住むことを機に、この場所での新たな住まいの形を考えた。

子世帯とのつながりをつくり、60代を迎えたご夫婦がこれから的生活を豊かに暮らすことができる終の住処として、L型の縁側空間を増築する計画とした。

縁側空間には、玄関ポーチ・アプローチ・駐車場・テラス・サンルームの機能を持たせ、内部(ご夫婦)と外部(子世帯・地域)をつなぐ中間領域としての役割を持たせている。ダイニングから延長してテラスを設置することで、プライバシーを確保しながら子世帯と緩やかにつながることができる。

既存の住まいでは、使いづらい動線計画(キッチン・ダイニングには洗面所を通って入る)、一部屋で完結する広がりの無さが

問題であった。

そこで、既存建物の形を活かし、南側にキッチン・ダイニング・リビングを設け、3つの部屋が雁行してつながっていく広がりのある空間とした。1階のみで生活ができるようにリビングの隣に寝室を設け、水廻り空間と直接つながり、トイレはホールからも使えるように入口を2つ設けることで、家全体が行き止まりのない動線計画となっている。

この場所で育っていく子どもたちが共有の庭で遊び、親世帯のテラスから祖父母の家へと入っていく…

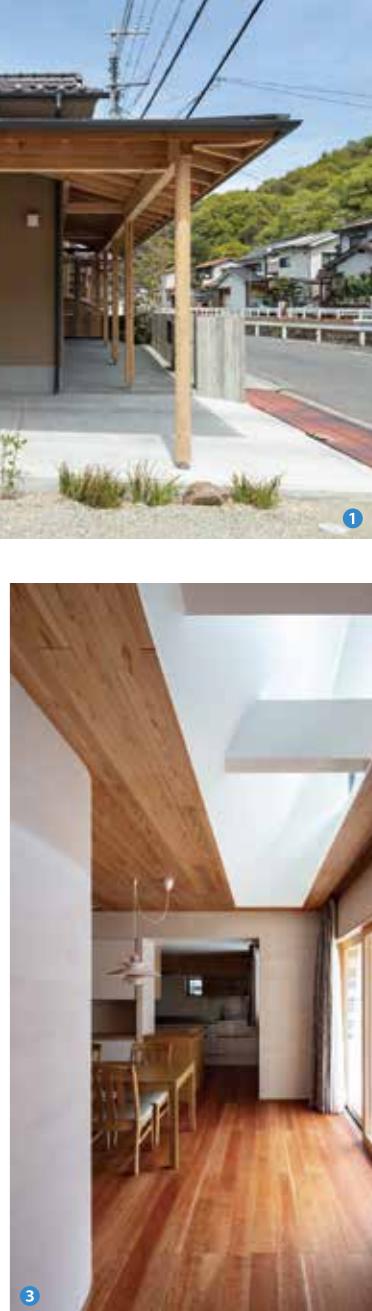
三世代が寄り添って暮らす形は、景色の移り変わりと共にその先の世代とも繋がっていく嬉しい住まいとなる。

既存の住まいでは、使いづらい動線計画(キッチン・ダイニングには洗面所を通って入る)、一部屋で完結する広がりの無さが

審査委員講評

内部、外部それぞれに向けて、明確な方針をもってリフォームされた住まいです。内部はLDK、寝室、水廻りを廻遊できる動線でつなぎ、のびのびと暮らせる空間となっています。外部に向けては軒の出の深い縁側空間を設け、子世帯や地域に向けて緩やかにつながる構成となっています。子世帯、車庫などの三棟で落ち着いた街並みが形成されつつあります。

❶増築した縁側空間は左からテラス・車庫、奥にアプローチと玄関ポーチとして利用。テラスは共有の庭へと繋がるように段差状のデッキテラスとしている。外壁上部の横長窓は既存の2階バルコニーを利用したハイサイド窓となっている。
❷❸2階にあった洗濯物干場のバルコニーは、1階に室内洗濯物干場であるサンルームを設置したことでも使わなくなるため、その空間を利用してハイサイドライトを設けている。ハイサイドライトからは太陽光が入り、壁に反射して間接光として室内を明るくする計画である。



❽❾内部は、施主の気持ちが落ち着く色である「サクラ色」が感じられる空間となるように素材を選定した。壁は湿度を調整する大理石や石灰を主成分とした左官材を塗き落とし仕上げとし、アクセントウォールとしてダイニングからリビングへの流れをつくるR壁を「サクラ色」としている。

❾オリジナルで製作した机・椅子とお仏壇収納は、扉が蛇腹式で側板に納まるようになっている。